# 福島市飯坂農業協同組合（ＪＡ福島市飯坂）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 代表理事組合長 | 畠　孝七 | 役員数 | 21名 |
| 所在地 | ㊡960-02 福島市飯坂町<br>湯野字田中前１－１<br>☎0245－42－3312 | | 理事　17名（うち常勤　１名）<br>監事　４名 |
| | | 職員数 | 118名（男85名　女33名） |
| 設立年月日 | 昭和58年２月１日 | | |

## Ⅰ　地区の概況

当地区は福島県の最北端に位置し、人口２万6427人、世帯数7726戸、奥羽山系の山ふところに抱かれ、阿武隈川の支流摺上川・小川の流域の明美な景勝と肥沃な盆地を兼ね擁する県北最大の果樹産地である。また、飯坂は全国屈指の温泉観光郷でもあり、まさに「いで湯とくだもののふる里」である。

昭和58年２月１日に飯坂町・飯坂町中野・平野・湯野・東湯野・茂庭の旧飯坂町管内の６農協が合併し福島市飯坂農業協同組合として発足した。

立地環境は盆地特有の夏の高温に恵まれ、桜桃・もも・りんご・なし・ぶどう・柿等の四季折々の落葉果樹を基幹作目とした適地適作による主産地を形成している。

さらに首都消費圏を結ぶ新幹線や東北自動車道の高速交通網が交差し、果樹産地としての条件を一層充足させている一方、福島市のベットタウンとして一部地区は急速に混住化が進みつつある地域である。

# Ⅱ　50年のあゆみ

## 1　地区農業の変遷

戦後の農業は、稲作・麦作と養蚕を中心とするものであった。農地は一戸平均79ａのうち水田35ａ・畑28ａ・樹園地16ａの割合で、普通畑の中心は麦作であり、田畑作地帯の典型的な農業であった。

しかし、昭和20年代後半から養蚕の切替えが進み、35年には樹園地の８割を果樹が占めることとなった。また、畑作から果樹への転換も進み、40年代後半を境に樹園地が６割～７割を占めることとなった。現在、稲作・畑作は果樹の補完的な位置づけとなっている。

果樹への転換が進む中で、農地面積が少ない農家及び混住化が進んでいる地区の農家は、山間地を造成し規模拡大を図った。

中野地区…沖根

平野地区…沖根・馬越（荒井）

湯野地区…大舟・小芦南部（茂庭）・三俣沢
　　高見館

茂庭地区…小芦平

以上の標高約600m迄の山間地と平坦地での生産により、基幹作目であるももは７月上・中旬から９月中・下旬までの長期出荷が可能となった。

主要果実品目としてはもも・りんごの他になし・ぶどう・桜桃・柿栽培が取り組まれており、菌茸等の栽培も行われている。

**図表１　地区農業の変遷（農業センサスより）**

| 項目 ＼ 年次 | | 25 | 35 | 40 | 50 | 60 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総農家戸数 | (戸) | 2,047 | 2,077 | 1,955 | 1,770 | 1,587 | 1,168 |
| うち専業 | (戸) | 1,028 | 511 | 389 | 237 | 338 | 315 |
| Ⅰ種兼業 | (戸) | 540 | 736 | 800 | 509 | 362 | 321 |
| Ⅱ種兼業 | (戸) | 479 | 830 | 766 | 1,024 | 887 | 532 |
| 経営耕地面積 | (ha) | 1,609 | 1,709 | 1,591 | 1,491 | 1441 | 1,317 |
| うち樹園地 | (ha) | 324 | 536 | 660 | 885 | 926 | 905 |
| 畑 | (ha) | 570 | 478 | 278 | 158 | 159 | 107 |
| 田 | (ha) | 714 | 695 | 647 | 448 | 355 | 305 |
| 収穫面積 果実類 | (ha) | 135 | 432 | 582 | 850 | 906 | 896 |
| 収穫面積 野菜類 | (ha) | 163 | 177 | 124 | 82 | 46 | 40 |
| 収穫面積 稲 | (ha) | 689 | 671 | 613 | 431 | 342 | 299 |
| 収穫面積 麦類 | (ha) | 418 | 331 | 80 | | | |
| 収穫面積 飼料用作物 | (ha) | | 30 | | 15 | 35 | 48 |
| 収穫面積 たばこ | (ha) | 21 | 5 | 1 | | 1 | |
| 飼育頭羽数 乳用牛 | (頭) | 45 | 152 | 248 | 129 | 254 | 249 |
| 飼育頭羽数 肉用牛 | (頭) | 473 | 394 | 129 | 94 | 30 | 15 |
| 飼育頭羽数 豚 | (頭) | 164 | 308 | 395 | 505 | 354 | 903 |
| 飼育頭羽数 にわとり | (千羽) | 3 | 13 | 16 | 11 | 3 | 2 |
| 飼育頭羽数 ブロイラー | (千羽) | | | 9 | 55 | 104 | 128 |

（注）ブロイラー　50年以降は出荷羽数

## 2　経営の推移

農協発足の昭和20年代及び30年代は、飯坂地区の生産農家は米・桑を中心に生計を立てており、28年には戦後最大の冷災害に見舞われ剰余金を計上できない苦しい経営状態だった。

40年代は、国道13号線や東北自動車道の開通・混住化の進展により、労働生産性向上を目指した機械化・米の過剰基調と食糧需要の多様化から、農業生産の形態は米から果樹を主体とした経営に移り農協の事業においても信用・販売・購買事業は急速な伸びを示した。

50年代は、経済の不況・停滞が長期化し、農産物の需給緩和傾向が強まり価格の低迷と外国農畜産物の輸入枠拡大の圧力が益々強くなり、農協の事業においては信用・共済事業に対する依存度が高まり、貯金残高100億円を超え、購買事業においても生産資材部門が頭打ち傾向を示し生活資材部門の占める割合が急増した。

58年には、飯坂町の６農協が合併し福島市飯坂として発足した。

60年代は、合併農協の真価を発揮し、園芸部門では一元販売を実現し効率的な共選販売体制を形成した。平成２年には初めて販売高が40億円を超えた。共済事業は農協経営において重要な位置を占め保有高も1000億円を突破した。

２年度には摺上川ダムの建設に伴う補償金の吸収により貯金残高は240億円を突破し、県下

**図表２　主な勘定と事業の推移**

（単位：千円、共済：百万円）

| 項目 ＼ 年度 | | 24 | 30 | 40 | 50 | 58（合併時） | 60 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正組合員戸数（戸） | | 2,091 | 1,633 | 1,714 | 1,825 | 1,715 | 1,700 | 1,662 |
| 准組合員戸数（戸） | | 296 | 258 | 310 | 722 | 880 | 894 | 1,113 |
| 資産 | 余裕金 | 8,164 | 18,215 | 304,643 | 3,614,738 | 7,873,973 | 9,319,262 | 21,230,811 |
| | 貸出金 | 7,026 | 63,247 | 235,095 | 1,732,560 | 3,706,136 | 3,840,084 | 3,435,677 |
| | その他流動資産 | 5,402 | 32,049 | 116,671 | 595,682 | 966,504 | 1,255,833 | 1,104,219 |
| | 固定資産 | 4,658 | 15,554 | 127,924 | 501,918 | 920,944 | 762,721 | 748,752 |
| | 外部出資 | 337 | 5,403 | 11,726 | 64,950 | 156,786 | 179,794 | 259,769 |
| 負債及び資本 | 貯金 | 15,825 | 74,824 | 630,078 | 5,544,222 | 11,651,563 | 13,092,099 | 24,300,900 |
| | 借入金 | 3,702 | 14,350 | 36,588 | 69,554 | 64,511 | 111,042 | 90,136 |
| | その他負債 | | 32,653 | 91,827 | 669,287 | 1,337,587 | 1,548,923 | 1,786,713 |
| | 出資金 | 1,566 | 12,992 | 33,731 | 175,039 | 421,079 | 510,936 | 588,960 |
| | 積立金 | 20 | 86 | 1,665 | 31,207 | 107,620 | 68,018 | 12,519 |
| | 剰余金 | −14 | −437 | 2,170 | 20,539 | 42,276 | 26,676 | |
| 主な事業実績 | 販売取扱高 | 54,324 | 85,771 | 736,592 | 2,801,850 | 3,337,885 | 3,815,090 | 2,334,743 |
| | うち青果物 | | 8,213 | 592,797 | 2,545,429 | 3,014,087 | 3,580,945 | 2,218,810 |
| | 米穀 | | 65,067 | 129,463 | 230,256 | 193,891 | 212,028 | 106,919 |
| | 畜産物 | | | 8,227 | 12,254 | 35,135 | 783 | 9,014 |
| | 購買取扱高 | 21,324 | 81,475 | 323,869 | 1,601,049 | 2,811,644 | 2,909,984 | 2,762,030 |
| | うち生産資材 | | 63,825 | 257,402 | 1,040,965 | 1,543,960 | 1,506,746 | 1,407,460 |
| | 生活資材 | | 17,650 | 66,467 | 560,090 | 1,267,684 | 1,403,238 | 1,354,570 |
| | 長期共済保有高 | | | 906 | 14,793 | 69,429 | 91,408 | 150,016 |

（注）　合併時は合併前日の合計　合併以前の年度は合併参加農協の合計

４位の貯金残高を有するに至った。

５年度には、天候不順による農産物の減収と合併財務確認事項に基づく諸引当金の充当を行ったため、剰余金を計上するには至らず諸積立金の一部を取り崩した。

## 3　農業協同組合の設立と合併

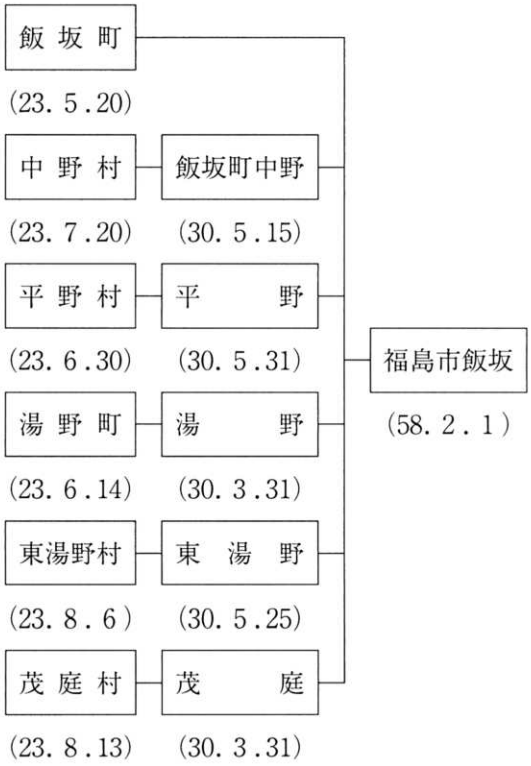
(1)　設立

ＪＡ福島市飯坂の前身は、昭和23年にそれぞれの農業会の資産を継承して設立された飯坂町農業協同組合、中野村農業協同組合、平野村農業協同組合、湯野町農業協同組合、東湯野村農業協同組合、茂庭村農業協同組合である。

(2)　６農協の合併

昭和58年２月１日に飯坂町内の飯坂町農協、飯坂町中野農協、平野農協、湯野農協、東湯野農協、茂庭農協の６農協の合併が実現し「福島市飯坂農業協同組合」が設立された。

**図表３　合併等の経緯**




(3)　市内８ＪＡの合併

福島市内８ＪＡが合併して平成６年２月１日にＪＡ新ふくしまが発足することになった。

## 4　各農協のあゆみ

(1)　飯坂町農業協同組合のあゆみ

飯坂町農協は昭和23年飯坂町農業会を承継設立され、信用事業を中心に購買・米販売等の事業を行った。

飯坂地区は、戦前より稲作・麦作・養蚕が作付けされ、特に果樹では桜桃・もも・りんご・柿の栽培に力を入れてきた。そのため果樹の販売に必要な組織を作る必要があり、25年に飯坂町果樹生産出荷組合が設立され、組織と協同の力で北海道・京浜方面に出荷し、くだものの産地「飯坂」として銘柄を確立した。設立当初は生産者個々が荷造り出荷していたが、徐々に品質・規格の統一を行い、34年には飯坂町共同選果場を設立し、労力の省力化を図り、組合員の生産向上を図った。

36年に飯坂町農協と飯坂町果樹生産出荷組合

**図表４　合併参加農協の概要**

| 組合名 | 組合長名 | 組合員数 | 役員数 | 職員数 |
|---|---|---|---|---|
| 飯坂町 | 佐藤　恒雄 | 761 | 14 | 19 |
| 飯坂町中野 | 佐藤　傳助 | 298 | 13 | 20 |
| 平野 | 紺野和右衛門 | 792 | 12 | 32 |
| 湯野 | 畠　孝七 | 713 | 13 | 45 |
| 東湯野 | 橘内　豊吉 | 253 | 10 | 14 |
| 茂庭 | 吉井　保 | 218 | 12 | 12 |

が統合、飯坂町農協として果実の出荷販売が行われた。

40年代には、省力化に向けスピードスプレヤーの共同防除を行い、水田利用再編対策事業の果樹振興のため桜桃・もも・りんご・いちごの作付けを行った。さらに果樹振興のため共同開葯所の設置・バックホーの導入を行うとともに、米の減反調整により反別の少なくなった組合員農家に農協で購入した田植機・コンバインを貸し出した。

50年代には、選果機の更新、桜桃の雨よけ施設を設置し、生産の安定と良品質確保を行い経営の安定を図った。

農協では、他の地区と比べて経営規模が小さいため、安定した経営の基盤を拡充するため反収の上がる果樹品目を選定し経営安定に努めてきた。

(2) 飯坂町中野農業協同組合のあゆみ

発足当初、地区内の耕地は水田60ha、畑100ha、地区内の大部分が山林原野で農家戸数250戸・役職員数19名の小規模な農協で経営は容易でなかった。さらに主要販売品であった木炭が25年に統制が撤廃され、養蚕も不振で農家は厳しい生活を余儀なくされた。

農協も経営困難が続く中、組合員農家の増収を図るため「中野地区果樹振興５ヵ年計画」を策定し、果樹振興に全力を傾注した。39年には福島市初の開拓パイロット事業導入による規模拡大・機械化による省力化・有利販売を行うための共同選果場施設の充実により、果樹産地体制の確立を図り、所得・生活安定向上に努めた。また組合員の営農と生活の安定を図るため貯蓄運動を積極的に展開した。共済事業においても保障の充実拡大を図るべく加入推進し、県北地区有数の保有高を有する農協となった。

しかし、中野地区単位の経済活動規模では限界があり、経営基盤の拡大強化を図る必要から58年の合併に至った。

(3) 平野農業協同組合のあゆみ

戦後の食糧不足による配給制度、農地解放等昭和20年代は目ざましい変化の中、水田は麦・菜種との二毛作、畑には煙草の耕作が普及。30年代には国民経済が復旧する中、食糧増産を基調とした農業政策により、飯坂町で一番平坦な農地を有する平野地区でも穀物の栽培面積の増加がみられた。

しかし、45年には総合農政の重要課題として稲作転換・休耕による減産が打ち出され、農協としても食管制度堅持の基本に立ち作付転換指導を進め園芸事業の振興を図るべく、指導体制の強化・共販体制の確立・スピードスプレヤー導入による機械化・共同防除の組織化等組織を上げて取り組んだ。行政の研究機関である果樹試験場の指導等恵まれた環境に支えられ、多種にわたる落葉果樹の栽培が普及拡大した。国道13号線の改修・東北自動車道の開通等により耕地面積の減少を避けるため、代替地の取得規模拡大による農地造成等実施し、協業による果樹団地が形成された。

農業が取り巻く環境が大きく変貌、工業の進出により都市化・兼業化が進行し、混住化社会と気象災害の中安定した生産量を確保する施設化を普及拡大し農業振興を図った。

(4) 湯野農業協同組合のあゆみ

農協設立当初の湯野地区の作物形態は米麦等

の食糧と養蚕が主力で、果樹は一部生産者組合員が個々に生産販売を行い農協果樹部を経由して販売するに過ぎなかった。

36年国が農業基本法を制定し、選択的拡大作目として果樹・畜産を提唱されるのに先立ち農協は果実の需要増加の見通しと湯野地区がもも・りんごの適地であることの一部先覚者の事例を生かし、果樹を農協の主体事業と位置づけた産地形成を目指した。33年に農協果樹部を発展的に改組し、農協が生産から販売・税務指導まで一貫して事業展開することにより、本格的なくだものの産地として進んでいったのである。

35年には、果樹共同防除組合を各集落に設置して、果実の生産安定と良品質果実生産運動を推進した。一方時代の要請に従い、いち早く個人選別荷造りから共同選果・共同販売を目的に中央共選場を建設。37年には、機械共選方式を導入し、全国産地に先駆けてもも・りんごダンボール容器を開発する等福島の果樹産業発展の基盤を造った。

日本の戦後の経済成長は目ざましいものがあり、国民の生活は向上した。農業者も農業収入だけで他産業並の所得を上げ生計を確保する必要があることから、30年代に湯野農業（農協）10か年計画を策定しこの実行に着手した。要は経営規模を拡大し大量生産・大量処理方式を確立する事だった。

・昭和38年の省力技術研究によるスピードスプレヤーの導入
・全面的ももの無袋栽培の実用化
・昭和40年以降の「高原（300m内外）もも」の販路拡大のための九州市場の開拓
・昭和40年以降の農業構造改善事業による80ha余の新興果樹団地（もも団地）の山なり造成
・湯野共選場に大量処理機械施設の建設（日量３万ｃ／ｓ）
・果実予冷庫及び冷蔵庫の建設による収穫・出荷の調整
・銘柄産地確立のためのグループ研究と「サンピーチ」「サンふじ」の産出
・産地銘柄品の奨励と品質格差を価格差に明確に反映させる湯野独自の精算方式
・組合員の総意・総合力発揮のための組織化

（農村家庭の民主化運動と生活防衛・健康管理活動の目的で婦人部を結成し一組合員一部員制を推進
若い組合員後継者が年代により自由に研究と活動するため、より若い「青年会議」グループと成長組の「桃林会」を結成させ農協がその活動を指導援助）

・青森より共選作業員の導入

以上の実践により組織・施設が整備されると共に、組合員は個々の立場において将来の希望が開け、農業経営後継者を確保し安定した産地が確立された。これに伴い当然ながら信用・共済・購買事業やその他の事業も飛躍的に伸びたことはいうまでもない。

一方苦難がなかったわけでない。特に果樹は「米」と異なり特別な国の保護もない自前産業であるだけに、生産・流通・販売等どれを挙げても独創と勇気を必要とした。28・39年の大凍霜害、29年の大降雹、53年の大旱魃、54年の台風16・20号の連続来襲、55年の豪雪、56年の台風15・24号直撃等々数多くの天災やももの灰星病の異常大発生によって壊滅的打撃を受けたが、その都度農家組合員の努力と団結により、

更に農協も真に農家組合員の身になって被災組合員に対応して難局を打開し、活性化させ引き継いで来たのである。

また県園芸果樹試験場（現県果樹試験場）の臨機の研究対応や市農業共済組合の果樹共済制度の発動、価格補償制度の適用は果樹農家にとっては唯一の救世主であった。

湯野農協はもも・りんごの産地育成とその発展に命運をかけてきたといっても過言ではなく、もも・りんご抜きにしては農協史は語れない。それを悉く成し得たもの、それは正に天・地・人の一体化であったと思はれる。

天・地は湯野がもも・りんごの適地（生産・販売）であること。

人（組織を含めて）は

①農業に忠実な指導者

②若い意欲的な人々・グループ

③生産と生活を支える着実な婦人グループ

以上の活動を見逃してはならない。

そしてこの有形・無形の力をまとめてくれたのが農協であった。

(5) 東湯野農業協同組合のあゆみ

昭和27年11月に多年の懸案であった石造農業倉庫の建設を政府資金と組合員の労力奉仕によって建設が進められたが、落成寸前に工事過程の問題により倒壊する苦難に遭遇した。しかし組合員の一致協力による奉仕作業によって、28年に無事再建完工を果たした。

さらに、28年には未曾有の大冷害により産米の収穫量は殆ど半減し、組合員の再生産資金として冷害対策資金を融資し危機を乗り越えた。

作物はもも・りんごを主体として栽培し、販売対応では長年個人の荷造り・格付けによる個選販売を実施してきた。しかし、時代の流れに対応できなくなり、山梨県春日居農協を再三にわたり視察し、44年に個人荷造り・農協格付けによる箱選共選を実施した。実施にあたり組合員の説得には大変な苦労があった。50年代にはぶどうの栽培が始まり、面積は多くはないものの肥沃な土地と研究熱心な栽培者により数々の賞に輝いている。

(6) 茂庭農業協同組合のあゆみ

茂庭地区は戦前から林業・養蚕を営む中山間農村で、戦後復興のため村長兼組合長の農協として昭和23年に発足した。経営の安定に努めたものの、28年の大霜害により零細農協の経営は悪化の一途を辿り、借入事業資金が返済不能となった。債権者からの再三にわたる請求による裁判所の競売執行・その取り下げの繰り返しで、当時の組合長が組合再建に私財を投じ一家離散の憂き目にあった時期だった。その後も農協窓口は閉鎖・開業の繰り返しであった。

30年代後半、地の利を生かしもも・こんにゃくの導入により農家収入の糧は確立されたが、過去の窓口閉鎖から組合員の不信感は強く、農協再建は閉ざされたままであった。45年9月に福島市農協更生特別措置の実行を受け、農協再建5カ年計画を樹立。計画実行のため各生産組合を解散、農協果樹部として統一共同選果場を建設し、農産物の農協出荷体制を確立した。53年には販売高3億円を達成することができた。

農協の再建実行段階ではたび重なる自然災害を被ったが、組合員の努力と協力により58年の飯坂地区農協合併の一員として参画することができた。

## 5　福島市飯坂農業協同組合のあゆみ

### (1)　組合員生産者組織の再編

合併当初の生産者組織は暫定１年間は旧農協の専門委員の代表者による生産者連絡協議会を設置し、栽培技術の統一・収穫出荷規格の統一選別荷造の均一に努めた。

昭和59年に作目別に本所専門部会が設立され統一した営農指導の活動により、多くの生産者農家の羅針盤となった。

また、従来の行政の農家組織である農事実行組合を各地区一律に36生産会に再編し、毎月の定例会・指導会を通し行政連絡組織を包含した形で農協事業の推進機能の役割を果たした。

### (2)　ブランドマークの統一

有利販売のためには、市場・仲卸・消費者が産地によせる信頼＝ブランド（銘柄）の確立が必要条件である。生産者組織の度重なる協議を重ね、合併初年度に「福島市飯坂農協」のブランドマーク「♨」と位置づけ、温泉マークは北海道から九州の市場に出荷されることとなった。

### (3)　一元販売の確立

合併当初の青果物の販売体制は５か所（飯坂・中野・平野・湯野・茂庭）の機械共選と１か所（東湯野）の箱共選で行われていた。

春先には職員が全出荷者を訪問し「販売委託契約書」締結により全量出荷を推進、全出荷者取引市場の代表者による果実共販大会の開催、摘果大作戦による大玉生産、共選場長・専門部員による規格統一会及び定期的な販売対策会議の開催により、統一した共選場運営に努めた。

しかし、６か所の共選体制では激化する産地間競争に勝てないことが危惧され、荷造経費の軽減及び付加価値の増加を図るために一元販売の機運が高まった。

昭和62年に度重なる集落座談会を開催し、生産者の理解を得た上で、湯野共選場において湯野・東湯野・茂庭地区の一元集荷販売が実施された。

平成元年には平野共選場を整備拡充した上で飯坂・中野・平野地区の一元集荷販売が実施され、二元集荷一元販売（共同精算）による効率的な共選場運営体制となった。もも・ぶどう・なし・りんごの継続出荷及び全出荷者を対象としたサンピーチの取扱等有利販売を実現した。

但し平成３年頃から近隣ＪＡで導入が進められた光センサーについては、市内８ＪＡ体制の中では実現せず課題として新ＪＡに持ち越された。

### (4)　婦人部組織の再編と生活指導事業

合併当初は婦人部組織が未設置であった茂庭地区についても婦人部が発足、各地区の代表者による婦人部連絡協議会が設立された。翌59年には婦人部として再編され、農協の生活指導事業は言うまでもなく農協事業全般の推進的な役割を果たした。

生活指導事業としては健康管理活動をメインに組合員の検診の啓蒙を始め、「健康まつり」と銘打って健康に関する講演・体操を内容としたイベントを毎年開催した。

また、高齢化社会を迎え、家族・隣人の寝たきり老人の看護技術の習得を図るため、「家庭看護モニター講習会」を昭和60年から開催、約300名余のモニターを育成し、ＪＡ新ふくしまの介護組織である「ふれあい部会」の一翼を担

うこととなった。

(5) 生産生活に直結した購買事業

購買品の主力品目である肥料・農薬については職員が生産者農家を訪問し、農協利用をお願いするとともに、営農指導事業と連携した指導購買を実践してきた。

近年、生活事業に対する需要が高まり、経済連と共同施行による農協葬祭事業は、組合員に利便を提供してきた。

また平成4年には組合員の余暇活用の高まりから旅行事業を展開。「旅行センター」職員の添乗による旅行は組合員に安心を提供してきた。

一方、生活店舗としては昭和61年にAコープ平野店が改装オープンし、Aコープ湯野店に惣菜部門を増設した。サブ店（中野・東湯野・茂庭）については湯野・平野店との複眼親子方式により運営し、サブ店でも新鮮な生鮮品が陳列されることとなり、「農作業着でも買物ができる店」として親しまれた。

(6) 組合員の生命と財産を守る信用共済事業

信用事業においては、茂庭地区に摺上川ダム建設計画が進められ、水没組合員及び地域住民及びダム下流地権者の生活再建対策として、水没者組織及地権者組織の結成、プロジェクト職員による訪問により、補償金の資金運用及び移転後の生活設計相談に努めた。平成元年度末151億円の貯金残高は2年度末に231億、3年度末に254億と県下第4位の貯金量を有するに至った。農協事業の要である①組合員組織の結成②相談機能の充実③職員プロジェクトの問題意識・実践の共有の賜物であった。

共済事業においては、養老生命共済に止まらず、高齢化社会に向けた年金共済に取り組むとともに、農家組合員の農作業・日常生活の事故に備える傷害共済推進により組合員の生命と財産を守ってきた。

(7) 今再び地域農業を守る

山間地の開発が進むにつれ、中野・湯野・茂庭地区の山間農地に猿が出没し、収穫間近の農産物に被害が続出した。有害鳥獣駆除の協力を得て被害防止に努めてきたが、農協としても調査を重ねた結果、補助事業誘導による電気牧棚の設置に取り組んだ。施設は農協の固定資産として取得され、組合員の農産物は守られることとなった。

また、湯野・東湯野地区の北部では、灌漑用水がないため長年旱魃時は大玉生産の支障となっていた。昭和63年畑かん施行委員会が発足し工事が進められているところである。

高速道路沿線の塩害補償・山間造成区の災害による補償工事・公共事業の農地買収に伴う価格交渉等、農協としては「組合員の営農と生活を守る」ため、一貫した支援体制で臨んできた。

(8) 新たな出発へ

平成4年2月17日福島市ＪＡ合併研究会設立翌5年4月12日福島市ＪＡ合併促進協議会設立10月1日合併予備契約調印、10月23日合併臨時総会、翌6年2月1日新ふくしま農業協同組合が設立されることとなった。

「組合員の営農と生活をを守る」ことを至上課題として実践してきた有形・無形の財産はＪＡ新ふくしまで更に真価の発揮が期待されることとなった。

# Ⅲ　年　　表

| 年月日 | 主な事績 |
|---|---|
| **23年** | |
| 5.20 | 飯坂町農業協同組合発足 |
| 6.14 | 湯野町農業協同組合発足 |
| 6.30 | 平野村農業協同組合発足 |
| 7.20 | 中野村農業協同組合発足 |
| 8. 6 | 東湯野村農業協同組合発足 |
| 8.15 | 茂庭村農業協同組合発足 |
| **25年** | |
| 8. 1 | 飯坂町果樹生産出荷組合設立（飯坂） |
| **26年** | |
| . | 再建整備の指定を受ける（茂庭） |
| **28年** | |
| | 霜・低温により農作物に大きな被害が発生し、茂庭地区は激甚災害地の指定を受ける |
| 12. | 石造農業倉庫完成（東湯野） |
| **29年** | |
| 4.26 | 冷害対策として製麺加工施設を設置（湯野） |
| | 青果物集出荷事業開始（東湯野） |
| **30年** | |
| 3.31 | 信夫郡の飯坂町・中野村・平野村と伊達郡の湯野町・東湯野村・茂庭村が合併して信夫郡飯坂町となる |
| 3.31 | 湯野農業協同組合と名称変更 |
| 3.31 | 茂庭農業協同組合と名称変更 |
| 4.25 | 飯坂町農機具利用組合発足 |
| 5.15 | 飯坂町中野農業協同組合と名称変更 |
| 5.25 | 東湯野農業協同組合と名称変更 |
| 5.31 | 平野農業協同組合と名称変更 |
| **31年** | |
| | 果樹指導部発足（湯野） |
| **32年** | |
| | 優良農業倉庫　全販連会長表彰（平野） |
| **33年** | |
| | 果樹指導部が発展的に解散し農協を中心とした一元集荷運動の機運が高まる（湯野） |
| 5. 1 | 農事放送開始（中野） |
| | いちごの共同箱選開始（飯坂） |
| | 優良農業倉庫食糧庁長官表彰（平野） |
| **34年** | |
| 4. 9 | 飯坂町果樹団体連絡協議会結成 |
| | ダンボール包装による販売開始（平野） |
| 5.30 | 系統利用優良　経済連表彰（東湯野） |
| . | 優良農業倉庫　農林大臣表彰（平野） |
| 8. 1 | 共選場建設　りんご（祝）の機械共選開始（飯坂） |
| **35年** | |
| 4.13 | 農協の果樹共同防除開始（湯野） |
| 9.22 | 中央共選場完成一元集荷販売開始(湯野) |
| **36年** | |
| 4. 1 | 有線放送開始（東湯野） |
| 4. 1 | 飯坂町果樹出荷組合を合併（飯坂） |
| | 平野果樹防除組合発足（平野） |
| | 今夏から青森より援農者を受入れ、共選場作業・管理農作業に携わる（湯野） |
| 5.29 | 貯蓄優績　農林中金支店長表彰（湯野） |
| 6.27 | 共済優績　全共連表彰（中野・湯野） |
| **37年** | |
| 5.25 | 新農村振興事業優良賞(農林水産大臣賞)受賞（湯野） |
| | 桃の機械共選開始・ダンボール容器開発・九州へ初出荷（湯野） |
| 9.12 | 共済優績　全共連表彰（平野） |
| 10. | 農業倉庫建設（中野） |
| **38年** | |
| 2.27 | 貯金残高１億円突破（平野） |
| 2.27 | 飯坂地区６農協合併協議始まる |
| 4. 9 | 直営ＳＳ導入（湯野） |
| | 果樹生産組合発足（茂庭）（滝野・田畑・中茂庭・梨平） |
| | 水稲共同防除開始（東湯野） |
| | 簡易郵便局開局（中野） |
| **39年** | |
| 1. 1 | 飯坂町が福島市に合併 |
| 2. 3 | 第１回朝日農業賞受賞（湯野） |
| 4.29 | 大凍霜害 |
| | 市初の開拓パイロット事業開始（中野） |
| 6.12 | 共済優績　全共連表彰（中野・平野・東湯野） |
| **40年** | |
| | 湯野地区で第１次農業構造改善事業の規模拡大（新規開拓80ha） |
| | 青果物共同選果開始（中野） |
| 3. 1 | スピードスプレヤー共同防除開始(飯坂) |
| 5.19 | 共選場落成（平野） |
| 5.27 | 系統利用優良　経済連表彰（平野） |

| 年月日 | 主な事績 |
|---|---|
| **41年** | |
| 6.15 | パイロット農協に指定され団地造成現地調査開始（沖根山）（平野） |
| | 鉄骨集荷場・購買店舗完成（東湯野） |
| | 台風20号で水害発生（東湯野） |
| **42年** | |
| 5.12 | 沖根山国有林農地造成調査（平野） |
| | 国道13号線用地収用開始（中野・平野） |
| 7. 1 | 果実共選場・果実冷蔵庫完成（湯野） |
| 9. 1 | 果樹共同防除部発足（平野） |
| **43年** | |
| | 給油所オープン（中野） |
| | 飯坂地区を縦断する東北自動車建設にかかる地権者会結成 |
| | 第２共同選果場建設（中野） |
| **44年** | |
| | 共同開葯所設置（平野） |
| | 桃・りんごの箱共選実施（東湯野） |
| **45年** | |
| 2. 5 | 米生産調整始まる |
| 4. | 開葯所開設（中野） |
| 9.30 | 市農協更生特別措置要綱に基づく指定をを受け再建整備５ヶ年計画樹立（茂庭） |
| **46年** | |
| 2.25 | 利用事業（田植機・コンバイン）開始（飯坂） |
| 6. | 摺上川ダム建設計画発表　物理探査開始 |
| 6. 7 | 共済優績　全共連表彰（中野） |
| **47年** | |
| 4. 1 | 開葯所設置（飯坂） |
| | 「サンピーチ」の出荷開始（湯野） |
| **48年** | |
| 6.21 | 共済優績　全共連表彰（中野） |
| **49年** | |
| 4.18 | 福島市管内農協合併促進協議会発足 |
| 5.11 | Ａコープ店開店（湯野） |
| 5.22 | 共済優績　全共連表彰（中野） |
| 6.30 | 新事務所完成（湯野） |
| 8. 1 | 新事務所完成（平野） |
| **50年** | |
| | 給油所オープン（湯野） |
| | 馬越山（荒井地区）果樹団地造成開始 |
| 4. | 給油所オープン（茂庭） |
| 5. | 名号・梨平で降雹害発生（茂庭） |
| 5.15 | Ａコープ店開店（平野） |
| 6. | 事務所完成（中野） |
| 6.21 | 共済優績　全共連表彰（中野） |
| 8. | 新事務所完成（東湯野） |
| 10. | 共同選果場設置（茂庭） |
| | 各地区の果樹生産組合は解散し農協果樹組合発足（茂庭） |
| **52年** | |
| 5.26 | 貯蓄優績　農林中金支店長表彰（湯野） |
| 7. 1 | 選果機（柳原式）更新（飯坂） |
| | 販売高３億円達成（茂庭） |
| 11.18 | 農協大会　増資優良表彰(中野・東湯野) |
| **53年** | |
| 3.29 | 事務所新築（飯坂） |
| | 桃のキャリー出荷開始。桃販売高10億円突破（湯野） |
| 8.23 | 台風５号大被害発生（茂庭） |
| **54年** | |
| 2. | 給油所オープン（東湯野） |
| 6. 4 | 飯坂地区農協合併促進協議会設立総会 |
| 5.23 | 共済優績　全共連表彰（中野・湯野） |
| 6. 4 | 飯坂地区農協合併研究会発足 |
| | 野菜集荷場完成（茂庭） |
| **55年** | |
| 2.13 | 果樹雪害調査（中野） |
| 5.21 | 共済優績　全共連表彰（中野） |
| 6.10 | 共済友の会設立（茂庭） |
| 8. 6 | 店舗改築落成開店（湯野） |
| 12.11 | ふじ誕生30周年記念全国品評会で田島秀俊金賞受賞 |
| 12.14 | 果樹に雪害発生（平野） |
| **56年** | |
| 4.13 | 信用業務オンラインスタート（湯野） |
| 5.11 | 信用業務オンラインスタート（飯坂・中野・平野） |
| 5.20 | 共済優績　全共連表彰（中野） |
| 5.25 | 事務所増改築完了（茂庭） |
| 8.23 | 台風15号来襲 |
| 10.23 | 台風24号来襲　果樹に甚大な被害発生 |
| **57年** | |
| 5.18 | 共済優績　全共連表彰（湯野・東湯野） |
| 11. 1 | 飯坂地区農協合併財務確認検査 |
| 12.15 | 合併臨時総会 |

| 年月日 | 主な事績 |
|---|---|
| **58年** | |
| 2. 1 | 飯坂町６地区の農協が合併し福島市飯坂農業協同組合が設立 |
| 2.26 | 旧農協財産引き継ぎ |
| 5. 3 | 生産組織連絡協議会設立 |
| 5.20 | 共済優績　全共連表彰 |
| 5.28 | 本所事務所落成式 |
| 6.13 | 東湯野支所・茂庭支所オンライン移行 |
| 11. 5 | 第１回農業祭（～６） |
| 12.14 | 第１回健康まつり |
| 12.21 | 無線局開局認可 |
| **59年** | |
| 1.27 | 年金友の会設立 |
| 3.19 | 婦人部設立総会 |
| 3.27 | 第１回通常総代会　役員の改選に伴い73名から33名に定数減 |
| 4.20 | 本所専門部会設立総会 |
| 4.23 | 支所別組合員大会 |
| 5.18 | 系統利用優良　経済連表彰 |
| 5.23 | 共済優績　全共連表彰 |
| 5.30 | 異常気象対策本部設置 |
| 6. 2 | 畠孝七組合長　知事表彰受賞祝賀会 |
| 6. 5 | 第33回全国もも研究大会 |
| 6.13 | 異常気象克服生産者総決起大会 |
| 10.18 | Ａコープ湯野店惣菜部門オープン |
| **60年** | |
| 4. 1 | ＡＴＭオープン（Ａコープ湯野店） |
| 4. 5 | 共選場運営委員会設置 |
| 5.30 | Ａコープ店舗モニター委嘱状交付式 |
| 10. 7 | 第１回家庭看護モニター育成 |
| **61年** | |
| 5.19 | 系統利用優良　経済連表彰 |
| 5.22 | 共済優績　全共連表彰 |
| 6.24 | もも・りんご摘果大作戦 |
| 7.25 | Ａコープ平野店落成式 |
| **62年** | |
| 3. 3 | ＣＤオープン（飯坂・平野支所） |
| 4.21 | Ａコープ湯野店改装オープン |
| 5.11 | 購買オンライン稼働 |
| 5.21 | 共済優績　全共連表彰 |
| 7. | 一元販売（湯野・東湯野・茂庭） |
| **63年** | |
| 5. 6 | 西根中生産学習 |
| 5.19 | 共済優績　全共連表彰 |
| 6.10 | 湯野・東湯野地区畑かん施行委員会設立総会 |
| 9. 1 | 第36回全国りんご大会が管内で開催 |
| **元年** | |
| 1.11 | 支所運営委員会・作物別正副部会長合同会議（一元販売） |
| 1.17 | 一元販売部落座談会 |
| 2.10 | 湯野・東湯野地区畑地帯総合土地改良事業起工式 |
| 5.18 | 共済優績　全共連表彰 |
| 6.30 | 平野共選場整備拡充工事完成 |
| 7.25 | 国際協同組合同盟（ＩＣＡ）セミナー当組合で研修 |
| **2年** | |
| 4.18 | 移動購買車「配達くん」稼働 |
| 5.17 | 共済優績　全共連表彰 |
| 5.18 | 系統利用優良　経済連表彰 |
| 11.13 | 韓国農協視察団来訪 |
| 11.16 | 摺上川ダム地権者税務研修会<br>農産物販売高40億円突破 |
| 12. 6 | 第３次地域農業振興計画推進協議会設立 |
| 12. 6 | 第３次地域農業振興計画策定推進委員会設立 |
| **3年** | |
| 3.19 | 農業後継者育成常任委員会を設置 |
| 12. | ピーチワイン「ゆめ果樹園」発売 |
| **4年** | |
| 2.17 | 福島市ＪＡ合併研究会設立総会 |
| 3. 1 | 旅行センター業務開始 |
| 4. 1 | 農協の愛称が「ＪＡ」に変わる |
| 4.10 | 湯野桃林会福島市農業賞受賞式 |
| 5.11 | ビッグセフティクラブ設立 |
| 5.21 | 共済優績　ＪＡ全共連表彰 |
| 5.27 | 貯蓄優績　農林中金理事長表彰 |
| 7.18 | 緊急もも生産者大会 |
| 8.15 | 夏休みチビッコフアンタジー実施 |
| **5年** | |
| 3.26 | 第10回通常総代会・合併10周年記念式 |
| 4.16 | 福島市ＪＡ合併促進協議会設立総会 |
| 5.20 | 共済優績　ＪＡ全共連表彰 |
| 10. 1 | 合併予備契約調印式 |
| 10.23 | 合併臨時総会 |
| **6年** | |
| 1.31 | ＪＡ福島市飯坂解散 |

# Ⅳ 資　　料

（平成５年度末現在）

## 1 組合員

（　）は戸数

| 正組合員 | | 准組合員 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 個人 | 法人 | 個人 | 団体 | 個人 | 法・団 |
| 2,057<br>(1,662) | | 1,260<br>(1,113) | 3 | 3,230<br>(2,775) | 3 |

## 2 役員及び参事

| | |
|---|---|
| 代表理事組合長<br>畠　孝七<br>副組合長理事<br>阿部正男<br>理事　深澤耕一<br>理事　安齋俊一<br>理事　紺野直己<br>理事　二階堂　勤<br>理事　佐藤傳治郎<br>理事　佐藤　忠<br>理事　樅山　和右エ門<br>理事　板倉福寿<br>理事　山田一郎 | 理事　樅山健一<br>理事　菱沼　清<br>理事　大宮勝博<br>理事　鈴木忠雄<br>理事　大塚　清<br>理事　今野英臣<br><br>代表監事<br>佐藤昭一<br>監事　二階堂　美一<br>監事　中村孝治郎<br>監事　畠　三夫<br><br>参事　古溝恵次 |

## 3 職　員

| 男 | 女 | 計 | うち営農指導員 | うち生活指導員 |
|---|---|---|---|---|
| 85 | 33 | 118 | 8 | 3 |

## 4 協力組織

| 名称 | 代表者 | 会員数 |
|---|---|---|
| 婦人部 | 鈴木マツ | 433 |
| みのり会 | 樅山ハツイ | 671 |
| フレッシュミセス | 佐藤美幸 | 97 |
| 桃林会 | 菅野源一 | 28 |
| 園志会 | 渡辺正芳 | 25 |
| 中野果樹研究会 | 佐藤一夫 | 22 |
| 飯坂後継者会 | 木村照夫 | 15 |
| 中野後継者会 | 佐藤善郎 | 22 |
| 平野後継者会 | 佐藤貴司 | 8 |
| 湯野青年会議 | 楠　亨 | 11 |
| 東湯野後継者会 | 小原繁明 | 8 |
| 年金友の会 | | |
| 飯坂支部 | 吉成善蔵 | 395 |
| 中野支部 | 佐藤傳治郎 | 208 |
| 平野支部 | 紺野善兵衛 | 491 |
| 湯野支部 | 田村勝男 | 312 |
| 東湯野支部 | 橋内豊吉 | 139 |
| 茂庭支部 | 小関　護 | 98 |
| 共済億友会 | 鈴木昭七 | 89 |

## 5 生産部会

| 名称 | 代表者 | 会員数 |
|---|---|---|
| もも専門部会 | 安田勝郎 | 892 |
| りんご専門部会 | 伊藤　浩 | 714 |
| なし専門部会 | 佐藤　清 | 157 |
| ぶどう専門部会 | 伊藤隆雄 | 99 |
| 桜桃専門部会 | 金子多美雄 | 131 |
| 柿専門部会 | 安藤喜義 | 106 |
| 水稲専門部会 | 黒須岩治 | 931 |
| そ菜専門部会 | 白川善夫 | 63 |
| 菌茸専門部会 | 紺野健一 | 13 |

## 6 主な施設

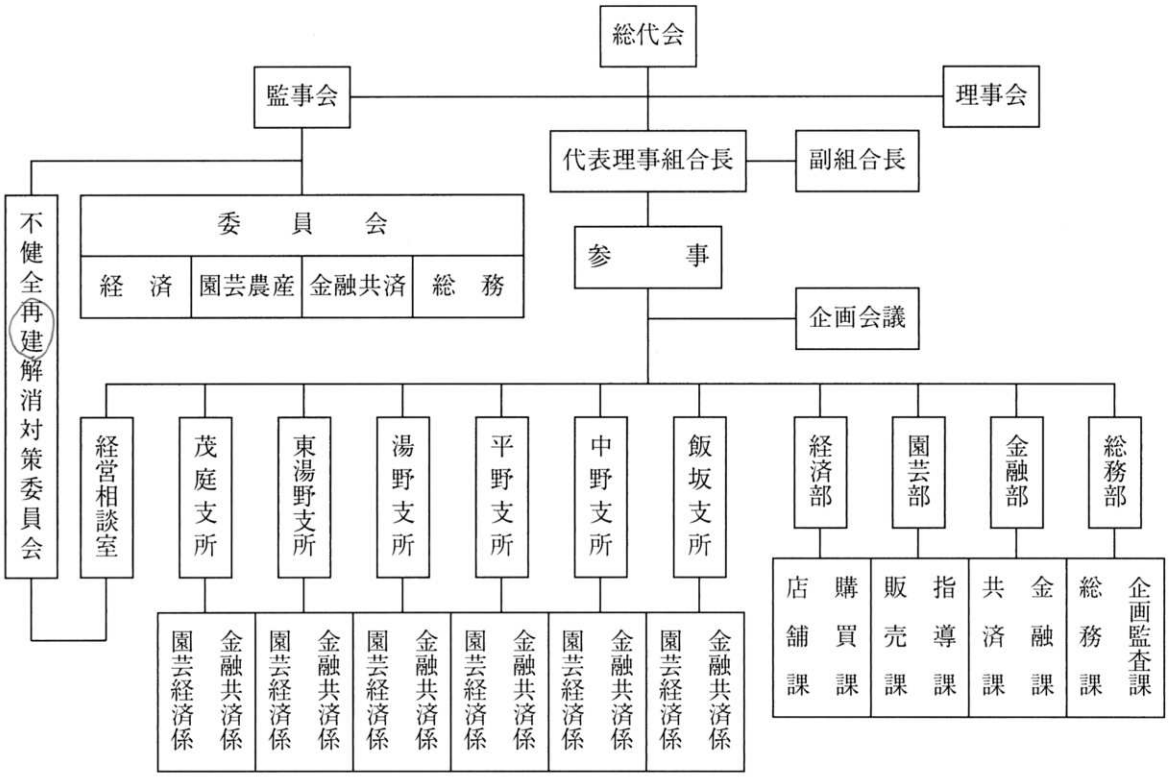
| 名称 | 所在地 |
|---|---|
| 本所 | 湯野字田中前1-1 |
| 飯坂支所 | 字立町14 |
| 中野　〃 | 中野字高取前13-1 |
| 平野　〃 | 平野字西海枝14 |
| 湯野　〃 | 湯野字田中前1-1 |
| 東湯野　〃 | 東湯野字尻明1-1 |
| 茂庭　〃 | 茂庭字西川原78-1 |
| Ａコープ平野店 | 平野字堂ノ前16 |
| 〃　湯野店 | 湯野字千刈田10 |
| 平野果実共選場 | 平野字堂ノ前6 |
| 湯野　〃 | 湯野字田中前1-1 |
| 湯野果実冷蔵庫 | 湯野字田中前1-1 |
| 中野農業倉庫 | 中野字東森63-5 |
| 平野　〃 | 平野字西海枝4 |
| 東湯野　〃 | 東湯野字尻明1-1 |

## 7　歴代組合長・参事

| 組　合　長 | |
|---|---|
| 58～6 | 畠　孝七 |

| 参　事 | | | |
|---|---|---|---|
| 58～60 | 齋藤　茂 | 63～5 | 池田　和夫 |
| 60～62 | 但木　幸一 | 5～6 | 古溝　恵次 |

## 8　経営管理機構




## 9　合併前の歴代組合長

飯坂町農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～35 | 西山友太郎 | 47～58 | 佐藤　恒雄 |
| 35～47 | 深澤　福信 | | |

飯坂町中野農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～24 | 佐藤　要一 | 26～37 | 山岸好三郎 |
| 24～26 | 佐藤　豊作 | 37～58 | 佐藤　傳助 |

平野農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～24 | 佐藤　福治 | 38～44 | 小野　忠雄 |
| 24～26 | 八木沼吉右衛門 | 44～58 | 紺野和右衛門 |
| 26～38 | 阿部　正 | | |

湯野農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～51 | 菱沼惣右衛門 | 51～58 | 畠　孝七 |

東湯野農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～31 | 鈴木　又七 | 34～49 | 黒須　正夫 |
| 31～34 | 鈴木　助七 | 49～58 | 橘内　豊吉 |

茂庭農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～24 | 今野金之亟 | 32～32 | 山田　金蔵 |
| 24～27 | 今野　直義 | 32～33 | 安藤與之助 |
| 27～29 | 山田藤五郎 | 33～42 | 山田　金蔵 |
| 29～31 | 今野　義男 | 42～45 | 山田　仁一 |
| 31～31 | 安藤与之助 | 45～54 | 山田　金蔵 |
| 31～32 | 今野　義男 | 54～58 | 吉井　保 |